

## 質疑応答の概要

### ○委員

間伐すべき森林は減っているのか。今後減っているのであれば税をなくすことはできるのか。減っていないのであれば税率を上げるなり、他の財源を必要とするのか。

#### ・事務局

基本的にはこの事業の効果で、少なくなってきたらと思っている。緊急間伐に限れば、間伐すべき森林の4万9千haのうち、対象となると思われる森林は約1万5千haであり、1期で4千ha間伐することとなるので、このペースでいくと3期かかることになる。

### ○委員

材を生産しないところをメインに整備しているということだが、木材生産しないのであれば人工林をどうしていくのか。

#### ・事務局

基本的に環境保全を目的とした森林に誘導していく。4割間伐し、自然の力に任せて混交林に持って行って、できるだけ手を離していきたいという思いがある。

### ○委員

緊急間伐の金額が年度によって変わっているのはなぜか。

#### ・事務局

平成19年度は随意契約で行っていたものを、平成20年度から入札制度を導入した。市町村での対応の遅れ等もあり、平成20年度の事業が一部、平成21年度にずれ込んだことから、年度の金額が変わっている。

### ○委員

里山は教育よりも事業費が少ない。NPOにおんぶにだっこでいいのか。

#### ・事務局

いろいろ検討したが、県がすべてやったのでは続かないので、地元で山に愛着をもって整備してもらうことが重要であり、地元の方の力でやってもらう方が長続きすると思っている。

### ○委員

方向性はいいが、NPOはできそうか。

#### ・事務局

NPO等は非常に熱心で、活動を広げている。

○委 員

間伐材は棚積みされているということだが、利用はどうしているのか。利用していないのであれば、持ち出すための道を整備するとか考えていないのか。

・事務局

目的は森林の環境をよくするという事なので、放置することで悪くなるのであれば、持ちだして利用してもらうことも大事な事。2期目以降の大きな検討課題。

○委 員

すぐに悪化するということはないと思うが、ずっとそのままではダメだと思う。間伐材の利用は根本的な問題でそれを解決しなければならない。

・事務局

木材価格が搬出コストに合わないために、全国で間伐材は伐り捨てられている。コストが高い状況の中では経済的に動かない。制度的に助成などが必要なのかなと思う。

○委 員

間伐材はタダなのに持ち出せないのは搬出にお金がかかるからか。

・事務局

伐採から搬出の費用が一番かかる。奈良県は道があまりはいつていないために、より高いコストがかかるので、道を入れて機械を入れてコストを下げる取り組みを併せてしているところ。環境税は山の環境を良くすることを基本に考えているので、持ち出す方が環境に良いということであれば持ち出すし、置いておいた方が良いということであれば置いておき、どちらかに縛るといふことはしない方がいいと思う。

○委 員

搬出の問題などを考えた場合に、500円でいけるのか。愛媛や鳥取は上げているが。

・事務局

木材利用でどういう用途事業を検討していくのかということが基本にある。あと搬出経費にも使っていくのであれば、500円でいけるのかということこれから検討しなければならない。必要箇所の搬出経費だけなら500円のなかで捻出できるが、県産材利用まで枠を広げると500円でいけるのかという議論が出てくる。

○委 員

税率を上げてペースを上げた方がいいのか。それとも今のペースでいいのか。

・事務局

人の問題がある。山で施業する人を考慮した事業量ということも考えられる。間伐6千haのうち800haを環境税で実施しているが、この割合を増やすのがいいかどうかということとは議

論が必要。

○委員

炭素収支の観点からいうと木材を持ちだして使って回転させるということを考えてほしい。

○委員

予算規模が大きくなればペースが速くなるということでもないと思うが、今までのところ500円で適度だということか。

・事務局

当初4千haを予定していたので、ペース的にはいいと思っている。森林マネージャーにしろ前さばきの部分に時間と手間がかかる。それが終わったところを作業するので、限界はあるのかなと思う。

○委員

強度な間伐を行って混交林に近づけていくということだが、今のやり方で進んでいくのか。

・事務局

とりあえずは下草とか灌木を生やして、土砂を移動させないというのが目的なので、合格かなと思っている。すぐに混交林にすることは難しいが、木材生産として使わないのであれば、広葉樹が生えてきて混交林に遷移していくと思っている。

○委員

木材を生産できない森林から手がかからないようにしていこうという方向はいいと思うが、その現状がいいのかどうかということ。

○委員

利用促進する方法が現在、社会制度上無いということなら、調査研究の余地があるのか。

○委員

将来どうするかということが曖昧ではないか。間伐材を伐って使う、ということが良いと思うが、すべてそうできないのであれば、方針をはっきりさせないといけないと思う。

・事務局

環境保全の間伐でも、そこに材があるのであれば利用していきたいと思うが、すべて間伐材を利用するのは難しい。基本的には使う方向にもっていく必要があると思っている。4割という強度な間伐を行うので、間伐後は手を離していく方向にもっていく。

○委員

法人も個人も税収が減っている。やるべきことはどんどん増えているのに、このままでいけるのか。

○委員

使途の検討が大事。

○委員

事務局の話なら緊急間伐については、3クールくらいでいけるということですね。

・事務局

今の対象で続けるということであればそうなる。国の補助制度もいろいろ出てきている。そちらと組み合わせてと考えている。

○委員

林業として成り立つものはそちらで頑張って、このままほっておいたら大変なことになるものを、環境を守るようにするというのであれば、良い方向にあると思う。

・事務局

あとは県産材利用に県民の理解がとれるかどうかということ。今景気が厳しい中で税率を上げるということはなかなか厳しく、もっと汗をかけという話になると思う。

○委員

シンポジウムや意見交換会はボランティアや関係者以外の一般の方は参加されたのか。

・事務局

森林だけでなく、環境に関心が高い方が参加されて、様々な意見をいただいた。